

しろきくらげ(白木耳)ノ學名ト其支那音

Japonicae) 第一冊第一號ニ登載セラレテアルはちぢやうしゆすらん (Goodyera hachijoensis YATABE.) ノ圖ハ其下隅ニ渡邊歙太郎寫生ノ意ナル K. WANABE, DEL. トアレドモ此圖ハ當時矢田部博士ノ爲メニ私が實物カラ寫生シタモノデ渡邊氏ノ描イタモノデハナイ、同書ノ他ノ圖ハ多ク同氏ノ描寫シタモノ故右ノ圖ハ料ラズモ不用意ニサウ記入セラレタモノデアラウト考ヘルガ事實ハ上ノ通りデアル、此圖ヲ始メテ『植物學雜誌』ニ出シタ時ハ右ガ正シク記入セラレテ居タト思フ、因ニ渡邊歙太郎氏ハ寫生ノ上手ナ畫工デ小石川植物園ニ雇ハレ毎ニ草木ヲ寫生シテ居ッタ、畫風ハ洋式デ同氏ノ寫生圖ハ今尙同植物園ニ多數遺ツテ居ル筈ダ、號ヲ金秋ト云ヒ渡邊審也君ノ令兄デアルガ今ハ疾クニ故人トナッタ

●飯柴永吉君著『日本產蘚類總說』ヘ私ハ其序文ヲ書イタガ其文中ニ孜孜トアッタ處ガ誤マラレテ攷々トナツテ居ル、是レハ多分活版ノ植字者ガ間違ヘタモノヲ校正者ガ氣付カズニ空シク看過シタモノデアラウ

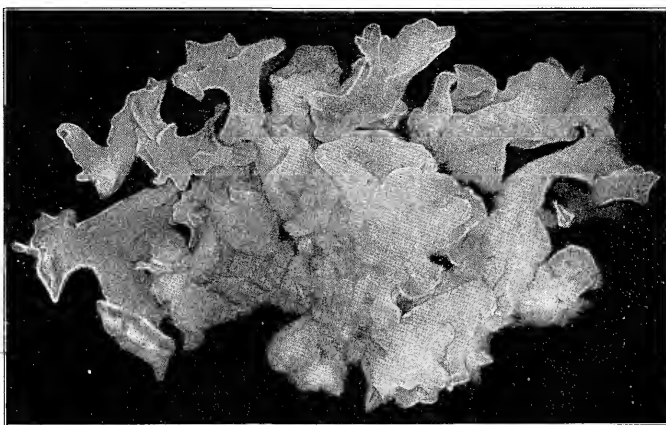
○しろきくらげ(白木耳)ノ學名ト其支那音

理學博士

川村清

一

支那料理ニ用キラル、高價ナ食料品ニ白木耳トイフ菌ノアルコトハ我邦デハ餘リ知ラレテキナイヤウデアル、きぬがさたけナル竹籐ハ同ジク支那料理ニ用キル菌類デアルガ、コレハ我國デモ支那料理ニ用キルコトガアルノデ屢々支那料理店ノ「シヨウキンドー」ニ料理ノ材料トシテ飾ツテキルノヲ見受ケル、又冬蟲夏草ノ一種ナル Cordyceps sinensis モ稀ニ支那料理ノ材料ニシテキル位デアルノニ白木耳ダケハ日本ニ於ケル支那料理デハ東京ヤ横濱ノ有名ナ支那料理店ニ於テ聽イテ見テモ夫シナモノハ知ラナイトイフノミデアッタシ又人々ニ聽イテ見テモ日本デハ喰ベタ事ガナイト云フ事デアルカラ假令我邦デ之ヲ支那料理ノ材料ニ使ツテキルニシテモ夫レハ極テ稀ナコトデアラウ、曾テ松村任三先生ガ支那ニ遊バレタ時上海カラノ通信ニ「當地に來て初めて白



白木耳 (Tremella fuciformis BERK.)

(川村清一撮影)

木耳を味ふ」トアツタシ、長ク支那ニ行ツテ居ラレタ小野孝太郎君ノ話ニモ支那デモ白木耳ガ出ル料理ハ最

モ念入リノ響應デアルトノコトデアッタ、明治十八年農商務省出版ノ『日清物産略誌』中ニ左ノ記事ガアル

白木耳

(產地)、四川省、湖北省襄陽府、穀城縣

(需用)、各省一般

頂上每百斤 一八〇〇、〇〇〇^兩

上 〃 七〇〇、〇〇〇

中 〃 五〇〇、〇〇〇

小箱ニ入ル

白木耳ハ長江ノ産ニシテ上等ノ料理ニ使用ス味淡白ナリ毎年ノ產出高ハ大約二千斤ナリト云フ

シャランゴン
香荳 (椎茸)

上等每百斤 三二、〇〇〇^兩

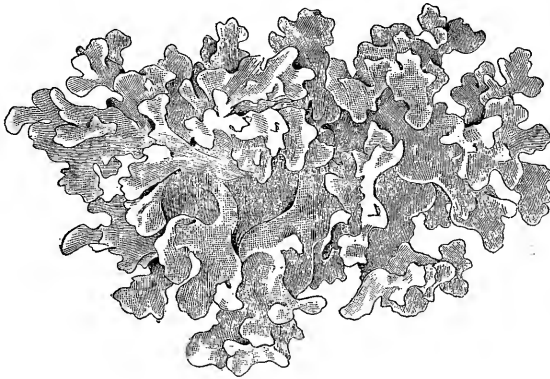
中 〃 二八、〇〇〇

下 〃 二三、〇〇〇

(產地)、福建省建寧府

(需用)、湘江省、江蘇省

是ニ由テ觀テモ椎茸ニ比較シテ白木耳ハ恐ロシク高價ナモノデア



白木耳 (*Tremella fuciformis* BERK.)

「エンケレル・プラントル」兩氏ノ「ブランチェン・フハミリエン」

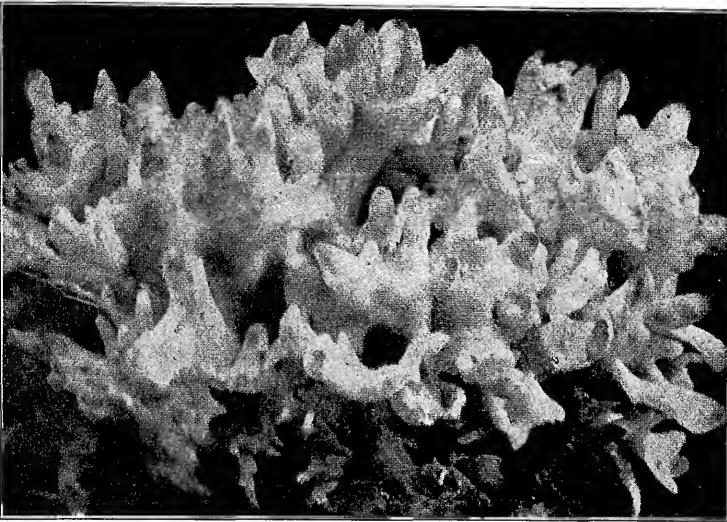
I. 1, p. 93. ニアル「ブレフェルド」氏ノ圖(實大)

コトガ分カル、明治十八年ノ昔ト今トハ物價ノ相違ガ烈シイカラ此價額ノ數字ハ現時ニ適用スル譯ニハ行カナ
イガ今デモ中々高價デアルコトハ同ジデアアル、併シ此菌ハ寒天ノ様ニ非常ニ多量ノ水ヲ含ンデキルモノデアアル
カラ目方ノ大部分ハ水デコレヲ乾燥セバ實ニ輕量ナモノトナリ從ツテ少量ヲ料理ニ使ツテモ脹レテかさガ出來
ルカラ椎茸ノ乾燥品ト白木耳ノ乾燥セル商品トヲ比較シテノ價額ノ
相違ハ實際ハ夫レ程ノ相違アル食料品トハ言ヘナイノデアアル
兎ニ角白木耳ハ斯様ニ支那ノ食料品トシテ最モ高價ナモノデアアルカ
ラ「生ナ標本ヲ我邦ニ取寄セテ椎茸ノヤウニ朽木ニ栽培シテ生ヤシ
タラヨイ」ト云フ意見ハ昔カラアッタ
然ル處今カラ二十七八年前ノコトデアアルガ私ハ之ヲ聞イテ「白木耳
ノ種子ヲ支那カラ取寄セルニハ及バナイ、此菌ハ日本デハ到ル所ノ
山野ニ生ジ決シテ稀ナモノデナイ、東京デモ小石川植物園等デハ坂
道ノ土止ニ用キテアル栗ヤ櫛ノ丸太ガ腐ツテキルモノニ生エルコト
ガアツテ雨ニハジカレタ泥デ汚レテキテ氣ガ附カズニ蹈ンデスベル
事等ガ雨降リアゲクニハヨクアルコトデアアル、又林中ノ枯樹ニ生ジ
白クテ透明ナ美シイ標本ハ小生自身デモ屢々採集シタシ日本各地ノ
同好ノ士カラモ種名鑑定ノ爲ニ送テ來ルカラ見レバ本菌ハ日本ニ普
通ニ産スルモノデアアルノニ未ダ夫レガ美味ナル食用菌デアアルコトヲ
知ラナイカラ從來誰レモ注意シナカッタノニ過ギナイト語ッタ
其時「然ラバ其菌ノ種屬ハ何デアアルカ未ダ學術上ノ種屬ヲ示シタ人

ガナイガ」ト問ハレテ私ハ擔子菌門ノ Tremellaceae ニ屬スル Tremella fusiformis Berk. デアルト答ヘタ
然シテ其後屢々私ハ此學名ヲ此通ノ綴デ用キテ記述シタコトガアルシ、又私が鑑定セル此學名ガ今日迄一般ニ
用キラレテキル

處ガ此間ニ「白木耳ノ學名トシテ君ガ鑑定セルモノハ誤ツテハキナイカ、他ニ實際ヒニジフォルムトシテキ
ルとれめらガアルカラ君ノ白木耳ニ用キテキル學名ハ其ノ方ニ該當スルノデハナイカ」ト云フ人ガアツタ併シ
私ハ其說ニ同意スルコトガ出來ナカッタ、然ルニ又或人ガ數種ノ支那ノ菌ノコトニ就キ『科學世界』ニ書イタ
中ニ白木耳ノ學名ニ私が昔カラ鑑定シテキル Tremella fusiformis Berk. ヲ掲ゲテ夫レニ附記シテ「此學名ハ
誤ツてゐるものと思はれる」トアツタノデ何故ソシナコトヲ言フカト取調べテ見ルト其人モ前ニ小生ニ注意シ
テ吳レタ人モ共ニ米國ノコロネル大學教授デアッタ菌類學者トシテ有名ナアトキンソン氏ノ著 “Mushroom”
トイフ書ノ中ニ此學名ノ菌トシテ明瞭ナ寫眞（次頁ニ轉寫シテ掲ゲテアル如キ）ガ載セラレテキルモノハ白
木耳トハ全ク異ツテ菌體ニ多クノ圓錐狀又ハ紡錘狀ノ突起ガアルモノ、圖ヲ載セテアルヲ觀テ小生ノ鑑定ニ
疑問ヲ懷カレテキルコトガ判ツタカラアトキンソン氏ノ書ニ此學名デ圖示シテキルモノハ Tremella vesicaria
Burt. トイフ日本ニモアルガ全然別ナ菌ノ寫眞デ決シテ T. fusiformis デハナイ、即チアトキンソン氏ガ鑑定
ヲ誤ツテキルノデ小生ノ鑑定ハ正シイト確信スル旨述ベテ置イタ

然シテ此度拙著『日本菌類圖說』中ニ No. 234 トシテ白木耳ノ圖ヲ掲ゲ學名トシテ Tremella fusiformis Berk.
ノ綴ヲ示シ且ツ其説明中ニ「本菌の學名 fusiformis は紡錘狀の意味なるが故にアトキンソン氏ノ菌類書二〇
六頁には本菌に似て菌體に多くの圓錐狀又ハ紡錘狀の（此六字ヲ脱ス）突起を有する別種の菌 Tremella vesicaria をば
本菌と誤りて其の寫眞を示して記述せり同書を參考する場合注意を要す」ト書テ置イタノハ前記ノ通り日本デ
モアトキンソン氏ノ書ヲ觀テ小生ノ鑑定セル學名ヲ疑フ人ガ多カルベシト思ヒ特ニ附記シテ置イタ譯デアアルガ



「アトキンソン」氏ノ著書 “Mushroom” = Tremella fuciformis
トシテ載セアルモノ、實ハ是レハ Tremella vesicaria
BULL. ヲ誤レルモノデアル

しろきくらげ(白木耳)ノ學名ト其支那音

夫レニウツカリシテ學名ノ綴リノ中ニCヲSニ誤ツテ
fuciformis トシタノミデナク其意味ヲ紡錘狀ト解釋迄シ
テ置イタノハ前述ベタ通一先輩ガ學名ノフューシフホル
ミスヲ紡錘狀ト思ヒアトキンソン氏ノ示セル寫眞ノ形ニ
ツキ話サレタコトガアルノデ此度ノ拙著ノ記述中ニモツ
イ釣リ込マレタ形デウツカリ fuciformis トスベキヲ fusi-
formis トシテシマッタ、學名中斯様ナ一字誤植位ハ第一
版ノ事デアルカラ他ニモアッタガ單ナル誤植ナラバ他ノ
個所ノ同ジ學名ヲ見レバ讀者ニハ夫レガ誤植デアルコト
ガ容易ニ判ルノデアルガ白木耳ノ學名ノ分ハ誤植デハナ
クテ小生ノ原稿ガ已ニ誤ッテ居タノデアル
依テ目下印刷中ノ第二版ノ分ニハ他ノ誤植ヲ直スト同時
ニ白木耳ノ學名ニ Tremella fuciformis Berk. トスヲC
ト直シタモノヲ用キ、且ツ本文中「fuciformis は紡錘狀を
意味なるが故に」トアルヲ「fuciformis は海藻ひばまた
屬を意味す」ト變更シタカラ拙著ノ第一版御所持ノ方ハ
斯様御訂正ヲ願ヒ度イノデス、尙アトキンソン氏ノ鑑定
ノ誤レル事ハ小生計リデナク米國ノロイド氏モ氣ガ附イ
テキルト見エテ近頃同氏ノ著述中ニ次ノ記事ガアルノヲ

見タ

Tremella fuiformis..... Everytime we mention the plant we do not fail to call attention to the fact that the picture Atkinson gave under this name was a misdetermination, and has no resemblance to it. 右ノ通りデアルカラ白木耳ノ學名トシテ從來私ガ鑑定シテキル學名ノ *Tremella fuiformis* Berk. ハ正シイモノデアルコトノ確信ヲ持ツテキル

次ニ白木耳ノ支那音トシテハ前記ノ『日清物産略誌』ニ振假名シテアルノハポーモールデアルガ曾テ私ガ支那人ニ就テ白木耳ノ發音ヲ尋ネタ時ニハポーモールガ正シイトノコトデアッタカラ私ハ然カ承知シテ居ッタ、然ル所白木耳ヲバイムルトカバイムルトカ呼ブ人ガアルノデ尙念ノ爲正確ナ發音ヲ知ラント欲シ支那ニ永年居テ支那語ニ精通セル澤本良臣君ニ質シタ所同君カラ左ノ返事ガアッタ

白木耳の支那音に付き左に御答申上候

ポーモールもバイムールもポーモールも皆誤りには無之候、御承知の如く南北土地廣く三譯を重ねて來るところには無之候、白の字北音即北京方面と南京方面はバイ、上海寧波はバ、廣東方面はボ、木の字北京南京漢口方面はムー、上海方面はモー、耳は音兒と通じ南北アルなれど上の字に續けて一語を爲す時北音にては白木耳^{アルバイムール}を白木耳^{アルバイムール}と發音す、北音は通用廣き故支那の地名の十中八九は英語にて北音によりたるものに候、但しベキン、ナンキンの字ベノ字は廣東音かと存候英人が最初廣東人よりおそわつて英音に綴りしものが一般に用ひられたるものなるべく、シャンハイも北音なれば上海土着の人は「ザンヘー」ト申候依而北音にて白木耳^{バイムール}と振假名被成候方一般的かと存候

以上ノ如ク澤本氏カラ親切ナ回答ヲ受ケテ支那デハ白木耳ヲ種々ニ呼ブコトガ分ッタノデ氏ニ感謝スルト同時ニ之ヲ茲ニ記シテ同好各位ニモ御報告スルコトニシタ